

(参考資料)

## アジア原子力協力フォーラム (FNCA: Forum for Nuclear Cooperation in Asia) の活動について

平成17年3月8日  
原子力委員会

### 1. 目的

積極的な地域のパートナーシップを通して、原子力技術の平和的で安全な利用を進め、社会・経済的發展を促進することを目指す

### 2. 参加国

日本、オーストラリア、中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナムの9カ国(この他にIAEAがオブザーバー参加)

### 3. 経緯

原子力委員会が主催して開催してきた、近隣アジア諸国の原子力関係者が一同に会し、情報交換及び地域協力のあり方を議論する場であった「アジア地域原子力協力国際会議」を発展的に改組し、平成11年4月に「アジア原子力協力フォーラム」が発足した。

<現行の原子力研究開発利用長期計画における位置づけ(アジア諸国との協力部分)>  
多種多様な国情を踏まえ、相手国の国情と開発段階に応じ、きめ細かい協力を行う。各国が自立的に原子力研究開発利用での実績を積んでいくことができるよう、その国の技術向上に係る自助努力を支援する。例えば、原子力委員会の主催するアジア原子力協力フォーラムにおいて、情報・意見交換、技術交流の場を提供しており、地域での関連技術レベルの向上等に寄与していくことが必要である

参考:「アジア地域原子力協力国際会議」は 1990 年、アジア地域での放射線利用や研究炉での利用の推進に貢献するとともに、核拡散防止条約(NPT)を批准していないインドとパキスタンが加盟している IAEA/RCA とは別の枠組みを構築するために、日本主導で設立された。1999 年、これまでの協力活動全体を総括し、内外との連絡・調整を行う「コーディネーター」を各国から選任し、その下で専門的見地から活動する「プロジェクトリーダー」を各協力分野ごとに選任し、より組織的な協力活動を進めることのできる FNCA 新体制に移行した。

### 4. 枠組み

#### ① 大臣級会合

各国の原子力を所管する大臣級代表が出席して、原子力技術の平和利用に関する地域協力のための政策対話を行う。なお、大臣級会合を補佐するための上級行政官会合を付設。日本と参加国で交互に毎年1回開催。

(開催実績)

- 第1回大臣級会合:平成12年(タイ) 大島科学技術庁長官出席  
テーマ「原子力利用の推進」、「原子力安全」、「地域原子力協力の推進」
- 第2回大臣級会合:平成13年(東京) 尾身科学技術政策担当大臣出席  
テーマ「持続可能な発展と原子力」、「放射線利用分野における協力のあり方」
- 第3回大臣級会合:平成14年(韓国) 細田科学技術政策担当大臣出席  
テーマ「人材養成戦略」、「持続可能発展と原子力」
- 第4回大臣級会合:平成15年(沖縄) 茂木科学技術政策担当大臣出席  
テーマ「放射線・ラジオアイソトープ利用の社会・経済的効果の増大」、  
「持続可能な発展と原子力エネルギー」
- 第5回大臣級会合:平成16年(ベトナム) 棚橋科学技術政策担当大臣出席  
テーマ「アジアにおける原子力人材育成に関する協力」、  
「FNCAの今後のあり方」

② 個別プロジェクトについての協力活動(添付1)

FNCAは、研究炉利用、農業利用、医学利用、原子力広報、放射性廃棄物管理、原子力安全文化、人材養成、工業利用の8つの分野で11のプロジェクトを展開している。プロジェクト毎に各国1名のプロジェクトリーダーが任命されている。各参加国のプロジェクトリーダーは、自国におけるプロジェクト活動を実施していく責任を有する。プロジェクト毎に、通常年1回のワークショップ等を開催し、それぞれの国の進捗状況と成果を発表・討議して、次期実施計画を策定する。

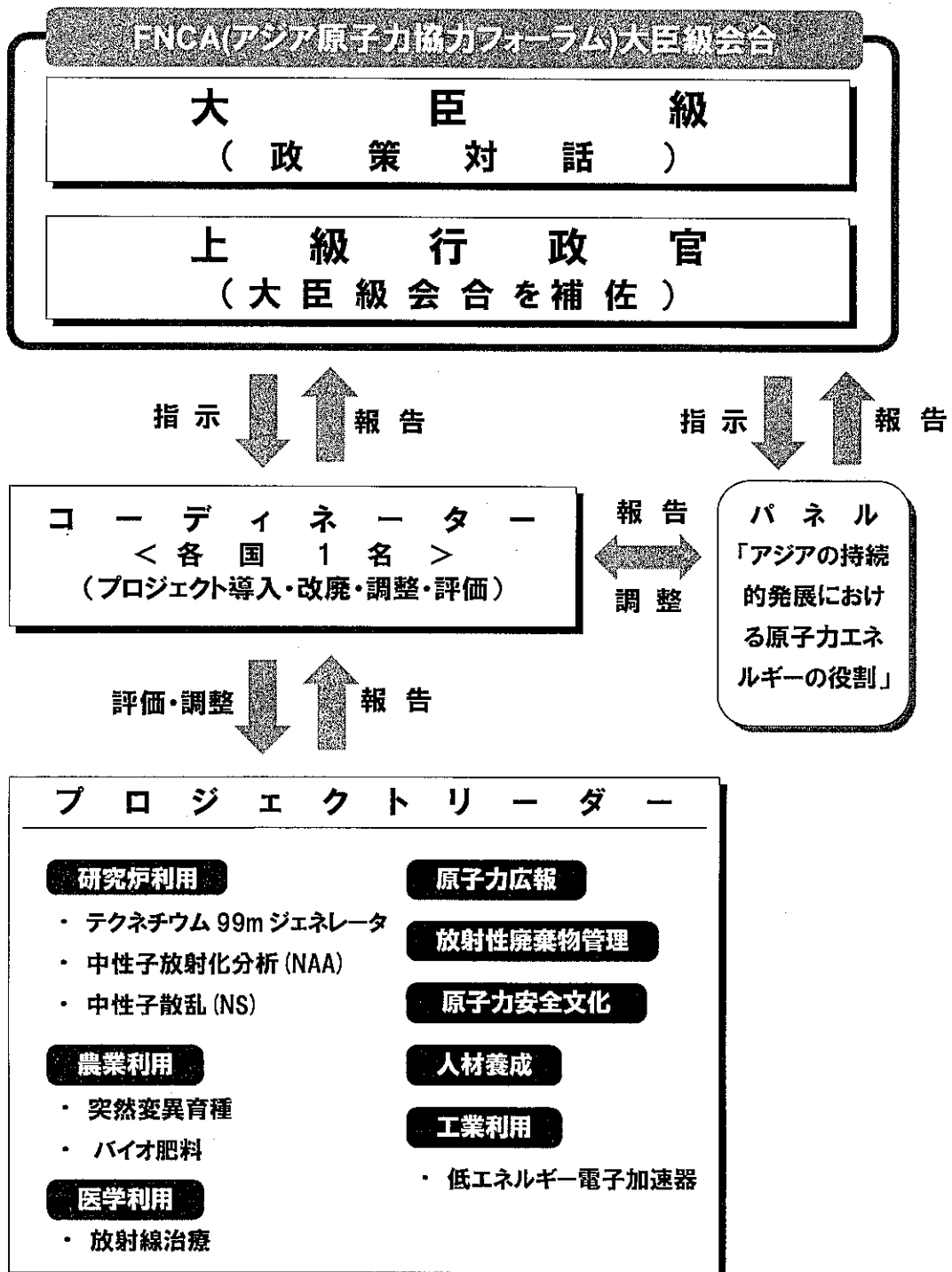
③ コーディネーターとコーディネーター会合

自国におけるFNCAプロジェクトの実施に責任を持つとともに、協力活動全体を総括して参加国相互の連絡調整を行う役割を持つコーディネーターが各国から1名選任されている。プロジェクトの実施状況を評価・レビューするとともに、全体計画を討議するため、コーディネーター会合を年1回日本で開催。

④ 「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネル

アジア地域の持続的発展を考えていくためには、長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から、原子力エネルギーの役割を評価していく必要がある。そのため、平成16年度から新たに「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」について政策的検討をおこなうパネルを設置し、平成18年度までの3ヵ年検討を行う。第1回会合は平成16年10月20日～21日に東京で開催。(添付2)

# アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の枠組み



## ○個別プロジェクト(8分野)活動の概要:

現在、FNCAの枠組みの下、以下の8分野の協力活動が行われている。このうち、安全文化はオーストラリアが主導し、他の分野は日本が主導している。

分野/プロジェクト		目 的
研究炉 利 用	テクネチウム-ジェネレーター	FNCA 参加国が輸入に頼っている核医学診断用のテクネチウム (Tc-99m) の簡便な製造方法の開発。
	中性子放射化分析	大気汚染防止を目的とした中性子放射化分析による大気浮遊塵分析のための標準手法の開発。
	中性子散乱	小角中性子散乱 (SANS) 技術を用いた天然および合成高分子材料の評価技術の確立。
農 業 利 用	放射線育種	乾燥に強い大豆やソルガム、耐虫性のラン、耐病性のバナナの品種開発研究およびデータベースや突然変異育種マニュアルの作成。
	バイオ肥料	空気中の窒素を固定する根粒菌やリン等、植物の養分吸収を助ける菌根菌などの微生物資材を利用したバイオ肥料の開発。
医 学 利 用	放射線治療	アジアに多い子宮頸がん等を対象とした放射線治療の標準治療手順の共同臨床研究を実施。新たに、抗がん剤との併用による研究を開始。
工 業 利 用	低エネルギー 電子加速器利用	FNCA 参加国への低エネルギー電子加速器の工業利用 (材料開発や環境浄化) の普及活動。
原子力広報		FNCA 参加国の広報活動への支援。原子力広報を目的に各国に専門家を派遣するスピーカーズ・ビューローや各国高校生を対象とした放射線利用に関するアンケート調査等を実施。
放射性廃棄物管理		FNCA 参加国の放射性廃棄物管理の現状、法規制体系、組織などに関する情報交換およびテノルム (TENORM、自然起源の放射性物質) の安全管理に関する情報交換、現状把握についての調査のとりまとめ。
原子力安全文化		安全文化指標などの国別調査を通じた各国の原子力安全文化促進活動、および研究炉のピアレビュー (相互評価) 活動の実施。
人材養成		FNCA 参加国での原子力人材養成のニーズ調査を踏まえた人材養成戦略の検討等。

## 「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」検討パネルの概要

### 1. 背景

- (1) アジアは、経済成長と人口増加が大きい地域であり、今後のエネルギー需要も大きく増大していくと予測されている。アジア地域の持続的発展を考えていくためには、長期的な環境問題への対応やエネルギー資源の確保の面から、原子力エネルギーの役割を評価していく必要がある。
- (2) このため、FNCAとしては、この課題に積極的に取り組んでいくこととし、平成15年12月に開催されたFNCA第4回大臣級会合において、「アジアの持続的な発展における原子力エネルギーの役割」を検討するパネル設置が了承され、アジア地域における原子力エネルギーの役割について検討を行うこととなった。

### 2. 目的

FNCA参加国及び東南アジア地域における長期のエネルギー需給見通し等を踏まえ、安定供給、環境への影響、経済性などの観点からアジアを持続的に発展させるために必要なエネルギー供給上の課題及び問題点を抽出する。さらに、これらの課題及び問題点に対し、原子力エネルギーが果せる役割を明らかにする。

### 3. 主催

内閣府 原子力委員会

### 4. 参加国

中国、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、ベトナム、日本

### 5. メンバー

各国のエネルギー・環境政策、原子力政策に関わる行政官及び専門家

### 6. パネル設置期間

平成16年度～18年度（3カ年）

### 7. 第1回会合の概要

平成16年10月20日～21日に東京にて開催。会議では、パネルの目的及び意義・進め方について確認した後、各国代表からの中長期的なエネルギー計画等に関するカントリーレポートの発表、共通課題についての討論セッション等を通して、FNCA諸国のエネルギーを巡る状況についての共通認識を深めるとともに、エネルギー供給における原子力の役割と可能性について、予備的な検討を行った。

## 8. 今後の進め方

### ○第2回会合（平成17年）

次の事項に関する包括的な討議

- (1) 次に示すような、エネルギー利用とこれに関連するFNCA参加国における課題についての情報の収集と分析
    - ・参加国の化石燃料需要の増大と地域内の限られた資源
    - ・化石エネルギー利用による環境への影響
    - ・非化石エネルギーの利点と欠点
  - (2) 持続的発展における原子力エネルギーの役割について討議し、次に示すような原子力発電導入における課題の整理
    - ・安全の確保、安全規制体系
    - ・国民合意形成に向けた取組
    - ・経済性評価
    - ・人材養成と技術基盤整備
    - ・核不拡散
- さらに、上記事項について、FNCA参加国間での国際協力の可能性についての討議

### ○第3回会合（平成18年）

パネルの最終報告書についての討議と確認

(以上)